

地域団体活動の紹介

松浪一丁目自治会

松浪一丁目自治会 会長 白石 壽明

当初「小和田自治会」の名称で発足しましたが、1984年4月に現在の名称「松浪一丁目自治会」に変わりました。

当自治会はJR辻堂駅から近い通勤の便が良く、また海へも徒歩でも行けることもあり、最近では若い世代の転入が増えてきています。令和5年11月現在松浪一丁目の居住世帯は728世帯でそのうちの524世帯が自治会に加入いただいております。

当自治会は道幅が狭く、行き止まりが多い住宅密集地区であり、災害時クラスター火災の発生が懸念されることから、自治会では消火器を多数街頭に配置、防災に備えているところです。防災に対する会員の意識が徐々に向上し、昨年11月に開催された「防災フェア」で自治会員の安否確認行動については8割の方に参加をいただいております。

自治会では、住民同士の交流をより一層深めるため自治会独自の行事として、3月に「おとなの集い」、6月に「地引網大会」、7月に「こどもの集い」9月に「日帰りバス旅行」、10月に「ハロウィンまつり」等を開催しております。昨年の「地引網大会」は当日の天候不良で実施できませんでしたが本年も実施予定です。また松浪緑地で実施している「ハロウィンまつり」は緑地全体を人形等で飾り付け、仮装して参加する親子も200名を超え楽しいお祭りに成長し、他の地区からの見学者も増えています。

各種行事に会員皆さんの参加をお待ちしております。



松浪二丁目自治会

松浪二丁目自治会 会長 長谷川 清

コロナ禍の間、多くの行事が中止となり、この間に環境美化活動の一環としてごみ問題に取り組みました。燃やせるゴミ置き場にはカラスからの被害対策として黄色いネットを使用していたが、対策は十分ではなく、周辺にごみが散乱するという苦情が多くありました。そこでゴミボックス(商品名:カラスいけいけ)を全額自治会負担で設置することにしました。過去4年間で49カ所、金額にして1,300,000円の設備投資を行い、その結果、多くの方から、カラスの被害がなくなった、立体的に収納できるのでゴミ置き場の周辺がきれいになった、ゴミ出しの手間が簡単となり子供でもお手伝いが出来る等好評です。



4年ぶりのもちつき大会を、2月17日(土曜日)松浪公園で実施しました。214名の参加があり、盛大に実施しました。小さなお子様にも参加していただき、もち米24kgを8回に分けて打ち、美味しくいただきました。



近年、松浪二丁目は新しい住宅が増えています。当日は、お子様と一緒に若いご夫婦の参加が目立ちました。これからの自治会活動のあり方として、若い方にもちつき大会等のイベント運営に積極的に参加していただき、自治会活動に興味を持ってもらうことも必要かと感じました。

ひばりが丘自治会

ひばりが丘自治会 会長 渡邊 勇次

ひばりが丘の昔は一面の畑と松林でひばりが飛んでいたことから「ひばりが丘」とついたそうです。大正時代は私立「雲雀ヶ丘(ひばりがおか)小学校」もあり、小和田村の一部でした。

現在のひばりが丘は二つあり、一つは私達のひばりが丘、もうひとつは三ヶ丘自治会のひばりが丘です。この件は防災の集計や学校の地域割り等について時々、混乱があり、いつかは統一してもらいたいと思っています。ひばりが丘は、300世帯未満の小人数のために役員を選出に苦労しておりますが、少人数の良い所は、要支援者、防災、トラブル等の把握もできていることで、平和な町と思っています。松浪地区のイベントには会場が遠いために参加者が少ないことが残念に思っていたのですが、先日2月4日、雨模様寒い中で行われた「もちつき大会」には多くの人達に参加していただき、大鍋2つの豚汁がなくなりました。企画次第で大勢の方がイベントに参加してもらえることが理解できた一日でした。



茅ヶ崎市食生活改善推進団体茅波会

食生活改善推進団体 菊池 紀子

おいしく楽しく健康に!を活動目標の一つとして、家族や地域の方々が食生活を通して健康に過ごせるように学び、考え、実践する会が、私の所属する「茅ヶ崎市食生活改善推進団体茅波会」です。

一月は、男性の料理教室と、老人会の料理教室がありました。寒い季節なので、あたたかい和風スープや、野菜がたっぷり摂れるメニューを考えました。

「久しぶり!元気だった?」の挨拶から、友人、知人、新しいご近所さんと知り合ったりと作業をしながら、和気あいあい楽しく作り、おいしく頂きました。又、私達も毎月研修があり、幼児食から高齢食まで、テーマに添ったメニューで、栄養士さんの講義の後、実習して学んでいます。今回は、「中高生のお弁当」がテーマでした。主食③(ごはん・パン等)主菜①(肉・魚等)副菜②(おひたし・煮めめ・野菜炒め・サラダ等)の割合で考えると、栄養面も、見た目もバランスの良い食事になるそうです。出来上がったものは、ボリュームも、色彩も、味も良かったので、地域の料理教室やイベント等で伝達して行こうと思います。



令和6年3月15日発行(第31号)
発行:松浪地区まちぢから協議会
HP: <https://chigasaki-machiren.org/matunami/>
印刷:(有)仲手川印刷



会長あいさつ

松浪地区まちぢから協議会 会長 前田 積



各地域の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

令和6年の元日も天候に恵まれ、素晴らしい初日の出を拝むことが出来ました。

しかし、一方では能登半島地震という悲しい出来事が起きてしまいました。一日でも早い復興を願っています。令和5年を振り返ってみますと、新型コロナウイルスが

5類に移行された事から、笑顔で会話が出来ようになりました。松浪地区まちぢから協議会運営委員会も1月の賀詞交歓会から春のさくらコンサート、落語会、コミセンまつり、松浪地区防災フェア等、全ての年間事業が予定通りに実施出来ました。地域の皆さんをはじめ関係者の皆さん、ご協力ありがとうございました。令和6年も、1月から賀詞交歓会をはじめ、さくらコンサート等の事業を計画予定し、地域の活性化につなげていきたいと思っています。

令和6年もご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

松浪地区賀詞交歓会

松浪地区まちぢから協議会 書記 佐々木 睦子



令和6年1月13日(土)に松浪コミュニティセンターで松浪地区賀詞交歓会を開催いたしました。当日は、茅ヶ崎市から佐藤市長始め、塩崎・岸両副市長など職員11名・茅ヶ崎市社会福祉協議会、地域内小中学校関係者、及び市議会議員のご来賓の方々にご出席を賜り、まちぢから協議会団体の方々を含め、総勢71名の参加がありました。

まずは、末松副会長から、哀悼の意を表して元旦に起きた能登半島地震の犠牲者に黙祷を捧げました。前田会長は、開会挨拶で、能登半島地震の被災者の方々へのお見舞いの言葉があり、元旦の素晴らしい初日の出に松浪地区まちぢからが輝かしく発展することを願い、今年もいろいろな行事を予定しているので行政や地域のみなさんのご協力をお願いされました。次に、佐藤光市長は、能登半島の地震により、活動を自粛しているところもありますが、地域の方々はこのときだからこそお互いが協力して地域活動を停滞させないで茅ヶ崎を盛り上げてほしいとご挨拶がありました。竹内教育長のご挨拶の後、汐見台小学校大越

校長先生が、松浪地区で各々の学校で学校運営委員会がたちあがり、学校・保護者・地域の方々ともに協働して松浪地区の子ども達を育てていきたいと乾杯のご挨拶がありました。

今年は4年ぶりに、みなさんで乾杯しお弁当を会食することができました。2時間の間にあちこちで雑談の輪が広がりました。日頃顔は知っているけれど話したことがないという皆様と、何のてらいもなくただ楽しくおしゃべりをさせていただくこういった貴重な場があるからこそ、人と人が繋がって理解しあえるのだと感じました。そして災害の時も必ず役に立つのではないのでしょうか。最後は、朝岡副会長の三本締めで閉会いたしました。「街をつくっていくいろいろな年齢世代との交流は楽しいよ」ということを多くの皆さまにお伝えし、自治会活動や各種団体のボランティア活動に興味を持ち参加して下さる方がこれからも増え、地域の皆さまが楽しく活動できる1年であることを心より願っております。



編集後記

★今年度は、コロナ禍も落ち着き、イベントの大半が4年ぶりの復活でしたが、関係者皆さんの尽力によりやり遂げられたように思います。お疲れさまでした。(松浪地区まちぢから協議会 書記 中井 汎)

★松浪地区まちぢから協議会の地区担当としてサポートさせていただいております。松浪地区の活動はとても活発的で、何より「人の温かさ」を感じた1年でした。引き続き、活動を支援して参りたいと思います!

(市役所 市民自治推進課 池亀 美和)

『まつなみ防災フェア』の開催

松浪地区まちぢから協議会 防災対策部会長 上原 新一



小学校：種々訓練(校庭)

恒例の松浪地区防災訓練を2023年11月26日(日)松浪小学校、松浪中学校にて開催しました。

今年は松浪地区防災訓練とは呼称せず『まつなみ防災フェア』として地域の皆様に気軽に参加して頂く事をお願いしました。新たなイベントとして『シンポジウム』『マップ発表会』『炊出し』を企画し、更に従来のイベント型訓練も6種類実施しました。そのため実施項目が多岐に渡り、時間制約の為、同時進行する会場も発生しました。今年のポイントは、イベント、訓練を通じて被災時のお互いの協力、意思疎通、献身的な共助が必要な点を理解して貰う事であり。更に松浪地区、茅ヶ崎市内における『防災とその備え』について、各自治会員個々に防災への意

識を高め『備え』を再認識して貰う事です。

当日は、朝から小雨模様で寒い日でしたが、各自治会は安否確認訓練をそれぞれ終了し、小学校、中学校のフェア会場に参集頂きました。市役所・消防署の職員をはじめ多くの関連の皆様を含めると約600名の参加を頂きました。今回、特に『炊出し訓練』では、試行錯誤しながら最善の結果を出すため、多くの関連の皆様からご支援やアドバイスを頂き、無事に調理し配膳する事が出来き貴重な体験をさせて頂きました。又、参加者の方々からの『美味しかった!』との一言が嬉しかったです。

関連の各部署並びに各自治会の皆様ご援助、ご協力誠に有難うございました。



小学校：シンポジウム



小学校：車椅子搬送等訓練



小学校：車椅子搬送等訓練



中学校：マップ発表会



炊出しカレーすいとん



中学校：本部前集合



中学校：ペット対応

松浪ふれあいネットワーク交流会

松浪地区社会福祉協議会 高田 陽子

—第13回 住み慣れた街の地域福祉を考える地区懇談会—

2月17日(土)、松浪コミセンで市地域福祉課職員、市社協職員、そして地域の福祉関係者など、日々地域の福祉を支えてくださっている方々54名の参加者が、`自分事として考えよう~事例を通して地域の支え合いを考える~、というテーマで8グループに分かれて事例検討を行いました。

事例は包括支援センター「さざなみ」の方に用意をしていただき、初期の認知症と分かった70代女性の事例をもとに、参加者が本人だったら、家族だったら、近隣・知人だったら、支援者として、それぞれどう感じるか、

何が出来るかなど自由に話し合いが行われた後、各グループごとに発表していただきました。

同じグループになったそれまで繋がりのなかった方達が、熱心に討議されていてとても良い雰囲気でした。そして、最後に事例を用意して下さった「さざなみ」の方から、この事例の元になった女性が、早期に相談をされたので、現在はいろいろな助けを受け、前向きに元気に生活しておられることを聞き、周りの人々の気付きや声掛けが大事なことを再認識させられました。

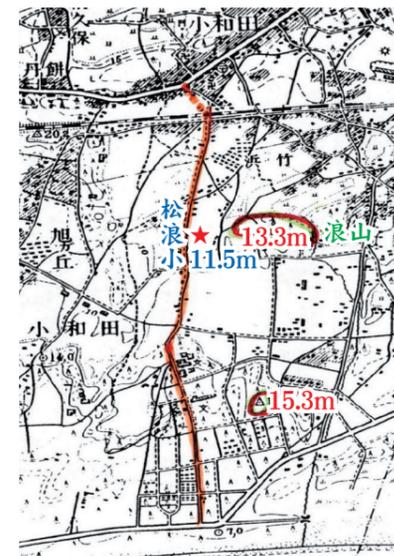


松浪地区さんぽ道 ~松浪小学校誕生物語11~ 元松浪小学校教頭 鴨志田 聡



前回は松浪小の校歌の歌詞についてお話しましたが、今回はその内容を「松浪地区の地形」という視点でもう少し掘り下げていきたいと思います。松浪地区という平坦な所というイメージがあるのではないかと思います。自転車などで走っていると、意外とアップダウンがあることに気づきます。あと、松浪地区は低い土地というイメージを持たれている方も多いかと思います。しかし、校歌の三番に「ひがし浪山こけむして」とあるように標高の高いエリアが多いのです。

松浪小の体育館の東側に国土地理院が設置した水準点あるのをご存じでしょうか。調べてみると松浪小の標高は11.56mで、50mを越す丘陵地にある小出小を除くと、市内の小学校で3番目の高さになります。左の明治40年測量



明治40年測量地図 (赤い数字は地図に記載されている標高です)

地図によれば、「浪山」と思われる場所の標高は13.3mで、その南には15.3mの所もあります。実は、これらは「砂丘」の高まりです。今では上に建物がたっているのでわかりにくいのですが、よく見ると松浪地区は砂地がいたる所に見られます。松の木が多いのも砂地の特徴です。

6000年前の縄文時代前期、茅ヶ崎は相模線の香川駅付近までが海でした。気候の寒冷化にともなって海岸線は少しずつ南に後退し、現在にいたっています。その過程で何列もの砂丘が東西の向きに形成されていきました。国道一号線(東海道)も、大きな砂丘列の高まりの上を通過しています。下の写真は松浪小の東門前の道を桜道に出る途中のものですが、左の駐車場と右の畑より2mほど上の砂丘の高まりに住宅が建っている様子がわかります。これが、かつての「浪山」の痕跡です。校歌の歌詞が地域の地形の成り立ちを考えるきっかけとなるのですから、小生(こいけ)第四郎さんの作詞に敬服です。

